

令和2年9月8日

8月31日(月)に筑北村坂北総合福祉センターで、第2回筑北村幼児期教育・保育推進検討委員会を開催しました。今回は2グループに分かれて下記の2つのテーマについて審議、意見交換を行いました。

○テーマ1 2園のよさを活かした交流保育の在り方

- 地域全体が子どもの遊び場になるような恵まれた環境にある。
- 「カブトムシを探して捕りたい」といった直接体験ができる環境にある。
⇒2園に共通する環境、今ある環境を活かす交流をしてはどうか。
- 夏の安坂川での川あそびや筑北ひまわり保育園で自由に使える田んぼなど自然と存分に触れ合える環境がある。
⇒環境のちがいを活かし季節によってあそび場を変えていく交流をしてはどうか。
- 2園のよさを親も子も知るために親子一緒に2園を訪ねてみてはどうか。

○テーマ2 豊かな自然や地域の文化を活かした、保護者や地域と共に子どもを育てる交流保育の在り方

- 子どもの交流が大人の交流にもつながっていくように保育園での活動を写真や動画を使って地域にも発信してはどうか。
- 「この村ならではの農作物の栽培やお祭りへの参加」、「高齢者施設への訪問」、「地元のことに詳しい人に話を聞いてみる」といったことを通して、地域の人とのつながりを持ったりしてみてもはどうか。

○「やってみたい」、「伝えたい」など子どもの興味、関心のある遊びから、子どもが主体的に取り組める交流にしていくことが重要である。



意見交換は活発に行われ、その中で2園の良さがたくさん語られました。子育てに関して、多くの村民のみなさんに関心を持っていただき、一緒に子育てに関わっていただく必要性を感じた会となりました。

保育園はこんな楽しいことしているよ

～変わろうとしている保育園～



<子どもの“学び”は“遊び”から>

保育園では子ども達が中心に遊びを考えて、活動を作り出す保育をしています。子どもの主体性、自主性が重要視されています。子ども達の遊びから活動が盛り上がっていき次への遊びへと繋がっていきます。

例えば、子どもさんが家に帰って

「今日、〇〇ちゃんと◇◇ちゃんたちと相談して川遊びしたの。砂の山からといを使って、つなげて、山の上から水を流したら、すごくはやく流れたよ。明日もやるんだ、友達誘うんだ、もっと大勢になるとたのしいな」と報告したとします。

この「川遊び」を通して、子どもが**主体的**に遊び込むことによって…、

- **知識** (水は上から下へ流れるんだなど)
- **思考力** (どうしたらもっと長い川が作れるか、お家の人にも聞いてみようなど)
- **判断力** (相談しながらこの方法でやってみようなど)
- **技能** (曲がった川を作ってみよう、どうやって作ろうか、何を使うのかなど)
- **表現力** (ああやって、こうやってと言葉や身振り、手振りで伝えるなど)

このようなことを、自然に身につけていくようになります。また、こうした経験が、“**学び**”**に向かう人間性**を育むことにもつながります。そしてその力は小学校や中学校の学びへと繋がっていきます。さらに、保育園での遊びを通じた豊かな体験は、大人になっても忘れないものとなります。

保育園では、そのような遊びができるようにと取り組んでいます。2園の交流も、保育士達は、交流の意義を考え、交流で育てたいもの、何が育つかというねらい持ちながら行っています。

今年、新型コロナウイルスにより交流が中断されてはいますが年長児中心に交流が再開していきます。2園の交流は発見がいっぱい。楽しいこといっぱい。どんな交流ができるかなと子ども達はわくわくしていると思います。



今、**保育園は**、幼稚園や認定こども園とともに**幼児教育施設**としての役割を果たすべく、保育士も研修や指導を受け、保育活動に活かそうと奮闘しています。

そんな中で見えてきた**お子さんの育ちの姿をお迎えの時にお伝えすることも大事にしたいと考えています。**

たくさん、たくさん素敵な所があるそれぞれの保育園やその地域に、お休みの時、子どもさんと出かけてみてはいかがでしょうか。子どもさんが保育園のこと(園舎内、園庭、園外、山、川)を教えてくださいましょう。

そこで親子の発見、気づきが生まれたら、それが子ども達の心を揺さぶり、より楽しい遊びや交流へつながるきっかけになるかもしれませんね。

第3回 9月15日(火) 於：筑北村公民館

- 「運動あそび」・「英語とともだち」の取組みについての意見交換
(保育園の教育・保育機能の充実に関すること)
- 子育て支援センター・保・小・中の連携についての意見交換 等
(発達や幼児期の遊びと小・中学校における学びの連続性を踏まえた幼児期の教育・保育の充実に関すること)

教育委員会事務局
教育次長 窪田 信幸
次長補佐 細田 雅義
TEL：67-1161
FAX：67-2170